注：分類欄に記載されている記号は次の意味を表す。
A＝「原因・理由を表すもの」、B＝「接続機能を持つもの」、C＝「無標」

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
5	「ほんの子供です＊から＊、駅長さんからよく教えてやっていただいて、よろしくお願いいたしますわ。」		280	“他还是个孩子，请站长多指导他，拜托您了。”		C	C
8		しかしそれは彼が心を遠くへやっていた＊から＊のことで、気がついてみればなんでない、向側の座席の女が写ったのだった。	282		其实这是他心里想着远方那个女人的◆缘故◆。定睛一看，并没有什么奇怪的。映在玻璃窗上的原来是对面座位上那个女人的面孔。	C	C
8		三等車である。島村の真横ではなく、一つ前の向側の座席だった＊から＊、横寝している男の顔は耳のあたりまでしか鏡に写らなかった。	283		宸頁眉吉概ｲﾄﾚ。慢断議恙了音頁壓戯翫那一排議屎側中，遇頁壓弍斤中的前一排，◆侭參◆壓完横詮貧峪能看到側身躺着的椎倖槻繁議一边耳朵。	A	A-36
8		娘の手を固くつかんだ男の青黄色い手が見えたものだ＊から＊、島村は二度とそっちを向いては悪いような気がしていたのだった。	283		他看见那个男人青黄色的手紧紧地抓住姑娘的手 。◆所以◆，岛村觉得有些不好意思再朝那个方向观望了。	A	A-36
8		娘は島村とちょうと斜めに向い合っていることになる＊ので＊、じかにだって見られるのだが、・・・	283		姑娘正好坐在岛村的斜对面，他本来是可以直接看到她的。	C	C
9		遥かの山の空はまだ夕焼の名残の色がほのかだった＊から＊、窓ガラス越しに見る風景は遠くの方までものの形が消えてはいなかった。	284		远山的上空，还微微残留着夕阳返照的余晖，透过车窗玻璃望见的风景并未消逝，一直伸展向远方，,,,	C	C
10		窓の鏡に写る娘の輪郭のまわりを絶えず夕景色が動いている＊ので＊、娘の顔も透明のように感じられた。	284		在车窗玻璃上只映出身影的部分，看不见窗外的景色。然而，暮景却在姑娘的轮廓四周不断地移动，◆使◆人感到姑娘的脸匆頁邑苧議。	B	B-5
10		島村が葉子を長い間盗見しながら彼女に悪いということを忘れていたのは、夕景色の鏡の非現実な力にとらえられていた＊から＊だったろう。	285		岛村长时间这样偷看着叶子，竟然忘记了这样做对她是不礼貌的。恐怕他是被镜中映现着的暮景的那种非现实的力量吸引住了。	C	C
11		ところがそれから半時間ばかり後に、思いがけなく葉子達も島村と同じ駅に下りた＊ので＊、彼はまたなにか起るかと自分にかかわりがあるかのように振り返ったが、・・・	285		可是，没想到，大约过了半个小时，叶子他们和岛村却在同一个车站下车了。岛村回头望望，他觉得还会窟伏焚担並，会与自己有瓜葛。	C	C
12		・・・雪国の冬は初めてだ＊から＊、土地の人のいでたちに先ずおびやかされた。	286		但他是第一次身临雪国的冬天，◆所以◆他首先就被当地人的装束吓住了。	A	A-36
14		女も濃い白粉の顔で微笑もうとすると、反って泣き面になった＊ので＊、なにも言わずに二人は部屋の方へ歩き出した。	288		那女人涂着浓厚香粉的脸上，也想要微露笑容，结果反倒延搅阻匯険図疋議表情。◆于是◆两个人就这么默默无语仇朝型寂恠肇。	A	A-38
14		彼女は彼を責めるどころか、体いっぱいになつかしさを感じていることが知れる＊ので＊、彼は尚更、どんなことを言ったとしても、その言葉は自分のが不真面目だという響きしか持たぬだろうと思って…	288		麿深深感欺慢音叙短嗤夭姥徭失議吭思，反而浑身都充满了依恋之情，这◆就◆使岛村更加觉得再讲什么话，听起来都只会被认为是不真摯的。	B	B-1
14		あんなことがあったのに、手紙も出さず、会いにも来ず、踊の型の本を送るという約束も果たさず、女からすれば笑って忘れられたとしか思えないだろう＊から＊、先ず島村の方から詫びかいいわけを言わねばならない順序だったが、・・・	288		虽然两人之间有过关系，但分别后却连一封信也不写，也不会面，岛村更没有信守诺言寄来舞蹈造型的慕。壓溺徨心栖，只会认为自己被麿一笑置之，被他遗忘阻。照理傍，戯翫哘乎遍枠讲个理由，唐撰祇埜匯番才是。	C	C
15		その日は道路道路普請の落成祝いで、村の繭倉兼芝居小屋を宴会場に使ったほどの賑かさだ＊から＊、十二三人の芸者では手が足りなくて、とうてい貰えないだろうが、・・・	289		据说那天◆由于◆庆祝公路竣工，村里的蚕茧仓库兼演剧的小房子都用做宴会场，极其热闹，十二，三个艺妓是不够用的。看来是请不来艺妓的。	A	A-15
15		無為徒食の島村は自然と自身に対する真面目さも失いがちな＊ので＊、それを呼び戻すには山がいいと、よく一人で山歩きをするが、・・・	289		无所事事的岛村，自然很容易丧失对他本身的严肃情绪。他认为山可以唤起这种情绪，◆所以◆常常一个人去登山。	A	A-36
16		・・・半玉がなく、立って踊りたがらない年増が多いから、娘は重宝がられている、・・・	289		这里没有雏妓，多数是不愿意起舞的半老艺妓，◆所以◆姑娘就更显得可贵了。	A	A-36
16		師匠の家の娘なら宴会を手伝いに行ったにしろ、踊を二つ三つ見せただけで帰る＊から＊、もしかしたら来てくれるかも知れないとのことだった。	289		老师傅家的姑娘即使到宴会上帮帮忙，顶多表演两三个舞蹈节目就会回来，◆因此◆说不定她会来的。	A	A-37
17		それにしても彼は頭から相手を素人ときめているし、一週間ばかり人間とろくに口をきいたこともない後だ＊から＊、人なつかしさが暖かく溢れて、女に先ず友情のようなものを感じた。	290		尽管如此，他一开头就把对方看作一个良家女子，又加上他已有一个星期没跟人好好闲谈了，心里◆便◆充满对人的思慕温情，首先对她产生了友情。	B	B-2

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
18	「それを君に聞いてるんじゃないか。初めの土地だ＊から＊、誰がきれいだか分からんさ。」		291	“我这不是在向你打听吗？初来乍到的，不知道哪一个长得漂亮啊！”		C	C
19	「君とさっぱりつきあいたい＊から＊、君を口説かないんじゃないか」		292	“我想跟你清清白白地交朋友，◆因此◆我才不向你求爱的嘛！”		A	A-37
20		女の声にあまり実感が溢れている＊ので＊、島村は苦もなく女を騙したかと、かえってうしろめないほどだった。	293		◆由于◆女子的声音里真实的感情过于充溢，反倒使岛村觉得没费什么力就欺骗了她，心里感到内疚。	A	A-15
20		それに彼は夏の避暑地を選び迷っている時だった＊ので＊、この温泉村へ家族づれで来ようかと思った。	293		而且，当时他还没有决定夏季避暑地选在哪里，◆因此◆他想是否把家眷带到这个温泉场来。	A	A-37
20		島村は東京の下町育ちな＊ので＊、子供の時から歌舞伎芝居になじんでいたが、･･･	293		岛村生长在东京的工商业区，从小◆就◆熟悉歌舞伎戏曲，	B	B-1
20		そうすれば女はさいわい素人だ＊から＊、細君にもいい遊び相手になってもらえて、退屈まぎれに踊の一つも習えるだろう。本気にそう考えていた。	293		幸好她是个良家女子，如果能来，还可以给夫人做个游伴。夫人可以向她学点舞蹈借以消愁解闷。他的确这样认真想过。	C	C
21		時々西洋舞踊の紹介など書く＊ので＊文筆家の端くれに数えられ、･･･	294		◆由于◆他写一些介绍西方舞蹈的文章，他勉强算是一个文人墨客。	A	A-15
23		師匠の家の娘だ＊から＊ではあろうが、鑑札のない娘がたまに宴会などの手伝いに出ても、咎め立てる芸者はないのだろう。	295		大约◆因为◆她是师傅家的姑娘，这个没有领执照的女子偶尔到宴会上帮帮忙，也不会有哪个艺妓挑剔吧。	A	A-1
24		それでももう一時間くらいは経っただろう＊から＊、なんと芸者を帰す工夫はないかと考えるうちに、･･･	296		这样约莫过了个把钟头。他在想：有什么法子把艺妓打发走呢？	C	C
24		電報為替の来ていたことを思い出した＊ので＊郵便局の時間にかこつけて、芸者といっしょに部屋を出た。	296		他突然想起有张电报汇款单已经送到了，◆就◆托故要赶时间到邮局去，便同艺妓一起走出房间。	B	B-1
24		肌の底黒い腕がまだ骨張っていて、どこか初々しく人がよさそうだ＊から＊、つとめて興座めた顔をすまいと芸者の方を向いていたが、･･･	296		她的两只胳膊黝黑，骨瘦如柴，看上去还带着稚气，人倒老实。他竭力不露出扫兴的神色，朝艺妓那边望去。	C	C
24		島村がむっつりしている＊ので＊、女は気をきかせたつもりらしく黙って立ち上って行ってしまうと、一層座が白けて、･･･	296		她见岛村一直闷声不响，好像会意了似地，默默地站起身就要走开。她一走，就会更冷场了。	C	C
25		その杉は岩にうしろ手を突いて胸まで反らないと目の届かぬ高さ、しかも実に一直線に幹が立ち並び、暗い葉が空をふさいでいる＊ので＊、しいんと静けさが鳴っていた。	297		杉树很高，要是不仰着胸背着手撑住岩石，简直看不到树梢。而且树干都排成一条线，笔直地耸立着，深绿色的叶子遮住了天空，显得深沉而静谧。	C	C
26	「僕は思いちがいしてたんだな。山から下りて来て君を初めて見たもんだ＊から＊、ここの芸者はきれいなんだろうと、うっかり考えてたらしい。」		297	“是我想错了，我刚从山上下来，第一个看到的就是你，无意中以为这里的艺妓都很漂亮。		C	C
26		七日間の山の健康を簡単に洗濯しようと思いついたのも、実は初めにこの清潔な女を見た＊から＊だったろうかと、島村は今になって気がついた。	297		他现在才发觉自己想把一个星期在山里休养而得到的建康简单地消遣一下的念头，实际上是从看到了这位清秀的女子后才产生的。	C	C
26	「･･･お煙草忘れていらしたらしい＊から＊、持って来てあげたんですわ。」		298	“我想你大概忘了带香烟，◆就◆把它给你拿来了。”		B	B-1
27		細く高い鼻が少し寂しいけれども、その下に小さくつぼんだ唇まことに美しい蛭の輪のように伸び縮みがなめらかで、黙っている時も動いているかのような感じだ＊から＊、もし皺があったり色が悪かったりすると、不潔に見えるはずだが、そうではなく濡れ光っていた。	298		她那细高的鼻梁略带愁云，鼻子下搭配着象个花蕾似的小嘴唇，很象美丽的蚂蟥环节滑溜溜地伸缩，即使默默无言的时候，也有一种微动的感觉。如果嘴唇起了皱纹或者色泽不好，就会显得不洁净。她的嘴唇可不是那样，而是光泽柔润。	C	C
27		少し中高の円顔はまあ平凡な輪郭だが、白い陶器に薄紅を刷いたような皮膚で、首のつけ根もまだ肉づいていない＊から＊、美人というよりもなによりも、清潔だった。	299		颧骨稍高的圆脸，轮廓颇为一般，皮肤颜就象是在白瓷器上略涂了一层淡红的胭脂，脖颈下的肌肉还不够丰满。◆因此◆，够不不上个美人，最为突出的是洁净。	A	A-37
28		しかし宿屋中に響き渡るにちがいない金切声だった＊から＊、当惑して立ち上ると、女は障子紙に指をつっこんで桟をつかみ、そのまま島村の体へぐらりと倒れた。	300		可是，她的尖声无疑地已响彻整个旅馆。他刚不知所措地站起身来，她就用指头戳破了拉门的纸，抓住门框子，就顺势倒在岛村的怀里。	C	C
28		少しでも腕をゆるめると、女はぐたりとした。女の髪が彼の頬で押しつぶれるほどに首をかかえている＊ので＊、手は懐に入っていた。	300		只要稍一松胳膊，她的身体就会瘫软下去。他紧紧搂着她的脖子，她的发髻差点儿被他的脸颊压散了。他把一只手伸进她的怀里。	C	C
32	「まだ人の顔は見えませんわね。今朝は雨だ*から*、誰も田へ出ないから。」		302	“还不见行人呢。今早下雨，谁也没下田里。”		C	C

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
32		女はむっとしてうなだれると、襟をすかしている＊から＊、背なかの赤くなっているのまで見え、なまなましく濡れた裸を剥きだしたようであった。	303		女子懊恼地低下头。和服脖领开着，甚至可以看到她整个脊背也变红了，宛如袒露着水淋淋的裸体。	C	C
33	「ええ、古い日記を見るのは楽しみですわ。なんでも隠さずその通りに書いてある＊から＊、ひとりで読んでいても恥ずかしいわ。」		304	“是啊，看过去的日记可真是一种享受。不论什么都不加隐讳地如实记载下来,连自己读起来，都觉得难为情哩。”		C	C
35		しかし、そういう都会的なものへのあこがれも、今はもう素直なあきらめにつつまれた無心な夢のようであった＊から＊、都の落人じみた高慢な不平よりも、単純な徒労の感が強かった。	306		但是，这种对城市生活的憧憬，现在已经隐藏在纯朴的绝望之中，象是一种天真的梦幻。◆所以◆，她的情绪不是那种城市溃兵高傲不满，却强烈地现出一种单纯的徒劳感。	A	A-36
36		いずれにしろ、島村は彼女を見直したことになる＊ので＊、相手が芸者というものになった今は反って言い出しにくかった。	306		不管怎样，岛村总算重新评价了她，◆所以◆在对方已成为艺妓的今天，他反倒难以说出口了。	A	A-36
36		足が立たない＊ので＊、体をごろんごろん転がして、	306		她脚跟站不稳，东倒西歪地摇晃几下◆便◆摔倒在地上。。。。	B	B-2
38		足の下の畳までが冷えて来る＊ので＊、一人で湯に行こうとすると、・・・	307		连脚下的铺席也是冷冰冰的。岛村刚想一个人去洗澡，	C	C
38		安心して高笑いがこみ上げて来る＊ので＊、湯口に口をあてて荒っぽく嗽をした。	308		他放心了，不禁要放声大笑，又急忙把嘴凑到泉口，粗野地漱起口来。	C	C
43		島村は女のこういう鋭さを好まなかった。けれども女をこんな風に鋭くするわけは、島村にも駒子にもないはずだと思われる＊ので＊、それでは駒子の性格の現われかとも見られたが、・・・	312		岛村并不喜欢驹子的这股厉害劲。但是，岛村觉得，使驹子变得这洋厉害的原因既不在岛村也不在驹子，那么就算是驹子性格的表现吧。	C	C
44		頭の上は屋根裏がまる出しで、窓の方へ低まって来ているものだ＊から＊、黒い寂しさがかぶさったようであった。	313		头上的屋顶却没有糊纸，屋顶向窗子那边倾斜，◆所以◆整个房间似乎笼罩着一种漆黑寂寞的气氛。	A	A-36
44		壁にも丹念に半紙が貼ってある＊ので＊、古い紙箱に入った心地だが、・・・	313		墙壁也精心地糊上一层毛边纸，◆令◆人觉得象是进了一个旧纸箱	B	B-7
45		息子は小さい時から機械が好きで、せっかく時計屋に入っていた＊から＊、港町に残して置いたところ、間もなく東京に出て、夜学に通っていたらしい。	314		她的儿子自幼喜欢机器，好不容易进了表店，◆所以◆就留在港市。不久，他好像到东京上夜校去了。	A	A-36
46		山袴の股は膝の少し上で割れている＊から＊、ゆっくり膨らんで見え、・・・	315		裤裙的胯裆是从稍上的地方分叉的，看起来有些隆起。	C	C
46		派手な帯が半ば山袴の上に出ている＊ので＊、山袴の蒲色と黒とのあらい木綿縞はあざやかに引き立ち、めりんすの長い袂も同じわけで艶めかしかった。	315		那条花哨的腰带有一半露在裤裙的外面，◆所以◆，裤裙的红黄色和黑色相间的宽条纹非常显眼。薄毛呢和服的长袖也同样色彩鲜艳。	A	A-36
52		・・・やがて坐り直してクリイムで白粉を落すと、余りに真赤な顔が剥き出しになった＊ので＊、駒子も自分ながら楽しげに笑い続けた。	319		可她不一会儿又重新坐了起来，用雪花膏擦掉脸上的白粉，露出一张绯红的脸。看到这副模样，驹子自己也高兴得笑个不停。	C	C
55	「心にもないこと。東京の人は嘘つきだ＊から＊嫌い。」		322	“言不由衷的话，东京人净爱说它，真讨厌！”		C	C
60		細く高い鼻は少し寂しいはずだけれども、頬が生き生きと上気している＊ので＊、私はここにいますという囁きのように見えた。	327		她那细高的鼻梁虽显得有些单薄，但面颊绯红，朝气蓬勃，看上去仿佛在喃喃自语表达她的存在。	C	C
62	「・・・私子供好きだから、よく分るんだわ。・・・」		328	“・・・我喜欢孩子，理解这种心情。・・・”		C	C
62		島村も火燵から振り向いてみると、スロオプは雪が斑な＊ので＊、五六人の黒いスキイ服がのずっと裾の方の畑の中で辷っていた。	328		岛村也从被炉里回过头看了看，只见山坡上还残留着稀稀落落的白雪，五、六个身穿黑色滑雪服的人在山脚那头的旱地里滑者。	C	C
66		またたび実の漬物やなめこの缶詰など、時間つぶしに土産物を買っても、まだ二十分も余っている＊ので＊、駅前の小高い広場を歩きながら、四方雪の山狭い土地だなあと眺めていると、	332		为了消磨时间，岛村去买了些木天蓼酱菜和香蘑罐头等土特产，还多余二十分钟，他们◆便◆走到车站前稍高的广场上散步。岛村一边眺望者一边想道:“这真是四面雪山环抱的狭窄土地啊！”	B	B-2
67	「お客さまを送ってるんだ＊から＊、私帰れないわ。」		333	“我不能回去，我在送客人哪。”		C	C
68	「いまね、宿へ電話をかけたの、駅だって言う＊から＊、飛んで来た。・・・」		333	“我刚才往旅馆打了电话，说你来车站了，我◆就◆跑来了。。。。”		B	B-1
70		それは冷たい薄情とも、余りに熱い愛情とも聞える＊ので＊、島村は迷っていると、・・・	335		这听起来，既象冷酷无情，又象是过分热烈的爱情，岛村有点迷惑不解了。	C	C
72		彼は聞くのがつらかったほどだ＊から＊忘れずにいるものだったが、・・・	336		这些话使他听了非常难过，◆以至◆难以忘怀，铭刻在心里。	A	A-40

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
72		蛾が卵を産みつける季節だ＊から＊、洋服を衣桁や壁にかけて出しっぱなしにしておかぬようにと、東京の家を出がけに細君に言った。	337		“眼下正是飞蛾产卵的季节，西服不要再乱挂在衣架或墙壁上了。”离开东京的家时，妻子这样嘱咐过。	C	C
75	「こんなもの、お一ついかがです。祝いものでございます＊から＊、お慰みに一口召上ってみたら。」		339	“这豆馅馒头，您尝一个怎么样？是人家的喜庆礼物。为了解闷，您就尝一口试试吧。”		C	C
76	「心にもないこと。東京の人は嘘つきだ＊から＊嫌い。」		340	“言不由衷的话。东京人爱说它，真让人讨厌！”		C	C
77		ちょうどその頃は雪が一番深い時であろう＊から＊、島村は鳥追いの祭を見に来ると約束しておいたのだった。	341		那时正是积雪最厚的时候，岛村和驹子约好要来看赶鸟节情景的。	C	C
78	「・・・売れることも一番で六百本を欠かすことはない＊から＊、うちでも大事にされてたんだけれど。」		343	“她最叫座，没有少过六百支的。在这里，大家都很器重她。”		C	C
81	「ええ、こわいくらい。自動車の通うのが、例年より一月も遅れて、五月だったわ。スキイ場に売店だあるでしょう、あの二階を雪崩が突き抜けて、下にいた人はそんなことをしらなくて、変な音がするから、台所で鼠が騒いだんだろうと行ってみてなんともない＊から＊、二階へあがると雪だらけじゃないの。・・・」		345	“是啊，真叫人害怕。汽车也比往年推迟了一个月，到五月才通车的。你还记得滑雪场里有个小卖部吧？一块崩雪穿过店铺的二楼，楼下的人还不知道。听到一阵奇异的响声，都以为是老鼠在厨房里闹腾呢，走过去一看，什么也没有。再上二楼一瞧，满地都是雪。		C	C
81	「ええ、こわいくらい。自動車の通うのが、例年より一月も遅れて、五月だったわ。スキイ場に売店だあるでしょう、あの二階を雪崩が突き抜けて、下にいた人はそんなことをしらなくて、変な音がする＊から＊、台所で鼠が騒いだんだろうと行ってみてなんともないから、二階へあがると雪だらけじゃないの。・・・」		345	“是啊，真叫人害怕。汽车也比往年推迟了一个月，到五月才通车的。你还记得滑雪场里有个小卖部吧？一块崩雪穿过店铺的二楼，楼下的人还不知道。听到一阵奇异的响声，都以为是老鼠在厨房里闹腾呢，走过去一看，什么也没有。再上二楼一瞧，满地都是雪。		C	C
83	「メエトルだ＊から＊、電気を無駄づかいしちゃ悪いわ。」		346	“屋里装了电表，随便用电灯太浪费，不好意思。”		C	C
84	「・・・うちに小さい子供が四人ある＊から＊散らかって大変なのよ。・・・」		346	“家里有四个小孩，把屋里搞得乱七八糟，真不得了啊。。。。”		C	C
85	「ええ。お座敷でお客さんのくれるのを、そっと袂へ入れる＊から＊、帰ると何本も出て来ることがあるわ。」		347	“是啊。在宴会上陪客时，把客人送给我的香烟，悄悄塞进袖口里，回来以后，有时能找出好几根呢。”		C	C
88		年がちがう＊ので＊、たまにしか来ないと言う。	349		◆由于◆年龄相差很大，他只是偶尔才来一次。	A	A-15
88	「・・・年期だ＊から＊、主人に損をかけなければいいのよ。・・・」		350	“・・・有雇期嘛，只要不让主人受损失就行。・・・”		C	C
88		一座敷で一本が自分の貰いになる＊ので＊、主人には損だが、どんどん廻るのだと言った。	350		赴宴一次，有一枝可以归自己，主人虽要吃点亏，但很快就会赚回来的。	C	C
91		自分の足跡も残っている山を、こうして眺めていると、今は秋の登山の季節である＊から＊、山に心が誘われて行くのだった。	352		当他怀着这样的心情眺望着这座留下了自己足迹的山峦时，想到现在又是秋天的登山季节，他的心◆就◆被山色吸引住了。	B	B-2
95	「・・・眠れなかった＊から＊、髪を洗おうと思ったの。・・・」		356	“・・・昨晚没睡好，我想洗洗头。・・・”		C	C
96	「・・・土曜日だ＊から＊、とてもいそがしいのよ。遊びに来られないわ。」		356	“今天是星期六，特别忙。我不能来玩了。		C	C
96		彼女が掻き登ったという熊笹は通れそうもない＊ので＊、畑沿いに水音の方へ下りて行くと、・・・	356		驹子刚才扒开草丛爬上来的那片长者山白竹的地方，看样子不象能走过去，他们◆便◆沿着田边朝有流水声的方向走去。	B	B-2
97		まして、駒子がちょうど島村を駅へ送っていた時に、病人の様子が変ったと、葉子が迎えに来たにかかわらず、駒子は断じて帰らなかったために、死目にも会えなかったらしいということもあった＊ので＊、尚更島村はその行男という男が心に残っていた。	357		何况，就在驹子送岛村到车站的时候，叶子赶来接她，说病人的情况很危险。可是她却断然不回去。所以，好像没有赶上和病人做最后的诀别。◆因为◆曾发生过这件事，岛村越发记住那个叫行男的男子了。	A	A-1
97		駒子はいつも行男の話を避けたがる。いいなずけではなかったにしても、彼の療養費を稼ぐために、ここで芸者に出たというのだ＊から＊、「真面目なこと」だったにちがいない。	357		驹子总是避而不谈行男的事。岛村想，虽说不是未婚夫妻，但为了给他赚一笔养病费，不惜在这里当了艺妓，这◆当然◆是一件“严肃认真的事情”。	B	B-12
98		栗をぶっつけられても、腹を立てる風がない＊ので＊、駒子は束の間訝しそうであったが、ふいと折れ崩れるように縋って来て、・・・	357		岛村虽然被驹子用栗子打了一下，但他并没有生气的样子。驹子顿时感到有些奇怪，一下子柔瘫着身子靠住岛村说：	C	C
98	「分らないわ、東京の人は複雑で。あたりが騒々しい＊から＊、気が散るのね。」		358	“我真不明白，为什么东京人思想都这么复杂。周围嘈杂，◆就◆心神不定了。”		B	B-1

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
98	「どうして？生きた相手だと、思うようにはっきりも出来ない＊から＊、せめて死んだ人にははっきりしとくのよ。」		358	“为什么？如果是个活着的伙伴，无法如愿把事情讲清楚，倒还无妨，但至少对死去的人要表白清楚啊。”		C	C
98	「私は一度も参ったことがない＊から＊、こだわるのよ、・・・」		358	“我一次也没来过，是有些顾虑哩。・・・”		C	C
98	「・・・今はお師匠さんもいっしょに埋まってるんです＊から＊、お師匠にはすまないと思うけれど、・・・」		358	“・・・现在师傅也一起葬在这里。真觉得有些对不起师傅。・・・”		C	C
99		思いがけなく葉子に会った＊ので＊、二人は汽車の来るのも気がつかなかったほどだったが、そのようななにかも、貨物列車が吹き払って行ってしまった。	359		他们意外地遇到了叶子，◆以至◆两人几乎没有注意到火车奔驰而来。现在什么都被这列货车吹散了。	A	A-40
100	「弟が乗っていた＊から＊、駅へ行ってみようかしら。」		359	“弟弟乘这趟车，真想到车站去看看。”		C	C
101	「ああ厭だ。もう髪を結うの止めた。あんたがよけいなことを言う＊から＊、あの人の墓参りを邪魔しちゃった。」		361	“啊，真讨厌！我不去梳头了。都是◆因为◆你多嘴多舌的，打扰了人家扫墓。”		A	A-1
102		駒子はうんと仰反って転がるものだ＊から＊、島村は重苦しくなって起き上ろうとしたが、・・・	361		驹子仰面朝天，身子使劲儿滚动着。岛村闷得喘不过气来，想爬起身，・・・	C	C
103	「これで来た＊から＊、帰る。髪を洗うのよ。」		362	“我来过了，这◆就◆回去。我还要洗头去呢。”		B	B-1
104	「お友達に悪い＊から＊行くわね。帰りにはもう寄らないわ。」		363	“我该走了，让朋友久等多不好，回来的时候我就不再到你这儿来了。”		C	C
106		渓流の奥の紅葉を見に行くので、彼は駒子の家の前を通ったことがあったが、・・・	365		他去观赏溪流上头的红叶，曾经路过驹子的房前，	C	C
107		その時彼女は車の音を聞きつけて、今のは島村にちがいないと表へ飛び出てみたのに、彼はうしろを振り返りもしなかったのは薄情者だと言ったほどだ＊から＊、彼女は宿へ呼ばれさえすれば、島村の部屋へ寄らぬことはなかった。	365		当时，驹子听到车声，就断定又是岛村，赶忙跑到外面去看，而他却连头也不回地过去。她就说他是个薄情郎。◆因此◆，只要她被唤到旅馆来，她就没有不到岛村的房间的。	A	A-37
107	「つらいわ。三十人の相手に三人しかないの。それが一番年寄と一番若い子だ＊から＊、私がつらいわ。」		365	“真吃不消！三十个客人就我们三个人陪。而且那两个人又是一老一少，我可吃不消哩。・・・”		C	C
108	「土地が狭い＊から＊困るだろう。」		366	“这地方太小了，不好办吧。”		C	C
111		瀬戸物の音が遠く聞えたりする＊ので＊、駒子も客に連れられて別の宿の二次会へ廻ったのかと思っていると、葉子がまた駒子の結び文を持って来た。	369		间或听到远处传来陶瓷器撞击的声音。岛村心想，驹子可能被客人领着到别的旅馆去参加第二场宴会去了吧。就在这时，叶子又送来驹子的一张折叠字条，	C	C
113	「うちの人って、鉄道へ出ている弟一人です＊から＊、私がきめちゃっていいんです。」		370	“我家里的人？我只有一个在铁路上工作的弟弟。◆所以◆，只要我决定了就行。”		A	A-36
113	「駒ちゃんはいいんですけれども、可哀想なんです＊から＊、よくしてあげて下さい。」		370	“驹姐可是个好人。可是，她挺可怜的，请你好好待她。”		C	C
113		こともなげに、しかし真剣な声で言う＊ので＊、島村は驚いた。	370		叶子若无其事地说，但是语气却是很严肃的，岛村有些吃惊。	C	C
114	「駒ちゃんですか。駒ちゃんは憎い＊から＊言わないんです。」		371	“你是说驹姐？驹姐可恨，我不告诉她。”		C	C
118	「・・・ここにお座敷があった＊から＊いいようなものの、お友達が帰りにお湯へでも誘ってくれて、私が家にいなかったら、あんまりだわ。」		374	“这里有宴会还说得过去，等一会儿伙伴们回来约找去洗澡，我要是不在家，那就太不象话了。”		C	C
121	「私一人だ＊から＊広いことは広いのよ。」		376	“就我一个人住，宽嘛倒是很宽敞。”		C	C
121		島村は寝息の温みに押し返されるように、思わず表へ出ようとしたけれども、駒子がうしろの戸をがたぴししめて、足音の遠慮もなく板の間を踏んで行く＊ので＊、島村も子供の枕もとを忍ぶように通り抜けると、怪しい快感で胸が顫えた。	376		岛村象被这睡眠中呼出的一股暖气推了回来似的，不由得要退到外面。可是，驹子已经砰地一声关上了身后的门。她无所顾忌地踏着重重的脚步声，走过铺地板的房间。岛村也蹑手蹑脚地从孩子们的枕边走过去，一种奇异的快感使他的心激荡着。	C	C
121	「お客さんのくれるのを袂へ入れたり帯に挟んだりして帰る＊から＊、こんなに皺になってるけれど、汚くはないの。・・・」		377	“我是把客人送的香烟，塞进袖子里或者夹在衣带里带回来的。虽然都揉得皱巴巴的，但并不脏。		C	C
122	「あら，燐寸がないわ。自分が煙草を止めた＊から＊、いらないのよ。」		377	“哎呀，没有火柴。◆因为◆自己忌烟了，也◆就◆不需要了。”		A	A-4
122		話の継穂がない＊ので＊、島村はそそくさ立上がった。	378		・・・没有继续谈的话题，◆因此◆，岛村急忙站了起来。	A	A-37
124	「・・・つらい＊から＊帰って頂戴。・・・」		379	“・・・我心里难过，你还是回东京去吧。・・・”		C	C

原文			訳文				接続語No
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	
126		廊下に隠れて立ったまま、部屋へ入って来そうもない＊ので＊、島村が手拭を持って出て行くと、駒子は目を合わせるのを避けて、少しうつ向きながら先に立った。	380		驹子躲在走廊上，就那么站着，看样子不想进房。岛村拿着毛巾走出去。驹子避免和他的目光相遇，就微低着头走在前头。	C	C
128		娘達が半年の丹精で織り上げたのもこの初市のためだ＊から＊、遠近の村里の男女が寄り集まって来て、見世物や物売の店も並び、町の祭のように賑わったという。	382		姑娘们花费半年心血织成的布也是为了这首次上市，◆所以◆，远近村庄的男男女女都集聚到这里来。杂耍场和杂货摊一个挨一个，街上就象过节一样热闹。	A	A-36
128		踊の方の縁故から能衣裳の古物などを扱う店も知っている＊ので＊、筋のいい縮が出たらいつでも見せてほしいと頼んであるほど、この縮みを好んで、一重の襦袢にもした。	382		◆由于◆研究舞蹈艺术的关系，他认识经售旧能乐戏装的陈货店，甚至委托人家，只要有条纹细密的绉绸，随时拿来让他看看。他喜欢这种绉绸，还用它做了一件贴身衬衫。	A	A-15
129		旧の一月から二月にかけて晒す＊ので＊、田や畑を埋めつくした雪の上を晒場にすることもあるという。	383		◆因为◆暴晒期是从旧历一月到二月，据说有人把覆盖着皑皑白雪的水田和旱地作为曝晒场。	A	A-1
129		もっとも東京の古着屋が扱ってくれる＊ので＊、昔通りの晒し方が今に伝わっているのかどうか、島村は知らない。	383		不过，◆因为◆是交给东京的旧衣铺去办的，◆所以◆岛村不知道古老曝晒法是否还流传至今。	A	A-7
129		しかし島村は縮を着る真夏にも縮を織る真冬にも、この温泉場に来たことがない＊ので＊、駒子に縮の話をしてみる折はなかった。	384		不过，岛村既没有在穿绉绸的盛夏，也没有在纺织绉绸的隆冬来到这个温泉场，◆因此◆，没有机会和驹子谈论绉绸品的事，	A	A-37
131		現在機業地に発展している大きい町が見たいというのではない＊ので＊、島村はむしろ寂しそうな駅に下りた。	385		岛村并不是想去看看目前已发展成为纺织工业区的大镇，◆所以◆，他就索性在一个荒凉冷清的小车站下车。	A	A-36
132		同じ雪国のうちでも駒子のいる温泉村などは軒が続いていない＊から＊、島村はこの町で初めて雁木を見るわけだった。	386		虽然同是雪国，但是驹子所在的温泉村，房檐就并相连，岛村在这个镇子上第一次看到“雁木”。	C	C
132		なにも見るものがない＊ので＊、島村はまた汽車に乗って、もう一つの町に下りてみた。	386		这里没什么可观赏的，◆于是◆岛村又坐火车到另一个镇子。	A	A-38
138		石段の下では火事が人家にかくれて焔の頭しか見えないところへ、擦半鐘が鳴る＊ので＊、なお不安が増して走った。	392		跑到石台阶下面，火场被房子遮住，只能看见火舌窜得很高。这时警钟声响彻云霄，人们更加惶恐不安地奔跑。	C	C
140	「私が笑われる＊から＊、帰って頂戴。」		393	“人家会取笑我的。你回去吧！”		C	C
141		小太りの島村は駒子の姿を見ながら走っている＊ので＊、なお早く苦しくなった。	394		稍微肥胖的岛村一边看着驹子的身影一边跑着，很快◆就◆感到呼吸困难了。	B	B-1
143		天の河はその山波の線で切れるところに裾をひらき、また逆にそこから花やかな大きさで天へひろがってゆくようだった＊から＊、山はなお暗く沈んでいた。	395		银河向那山脉尽头伸展它的下端，再返过来，从那儿以壮阔的气势向太空扩展开去。山峦更加深沉了。	C	C
145		板葺板壁に板の床だけでがらんどうだ＊から＊、屋内にはそう煙も巻いていないし、…	397		只剩下木板屋顶、木板墙和木地板，屋里空荡荡，已不怎么冒烟了。	C	C
146		その二階から落ちた＊ので＊、地上までほんの瞬間のはずだが落ちる姿をはっきり眼で追えたほどの時間があったかのように見えた。	397		她就是从那二楼上掉下来的。那是发生在一瞬间的事。但是，人们却有足够的时间清楚地看见她落下来的情景。	C	C